

A I時代の教育学会
2023年度事業報告

I 総務報告

1 理事会 < 3回開催 >

第16回理事会

開催日 令和5年7月7日(金)
役員選任案/委員長の変更案/2022年度事業報告・収支決算・監事報告案
投稿規程改訂と研究倫理チェック項目の追加案/各委員長からの報告/
AI/AL学会の統合の進捗についてなど

第17回理事会

開催日 令和5年11月17日(金)
次回年次大会の開催について/専門研究グループ(SIG)に関する規程案/
研究委員会2023合同大会/各委員長からの報告など

第18回理事会

開催日 令和6年2月15日(木)
事務局長選任方法/事務局経費/2024年度事業計画・収支予算/SIG規程/
各委員長からの報告など

2 総会 < 1回開催 >

第6回通常総会

開催日 令和5年9月24日(日)
2022年度事業報告・収支決算及び監査報告承認/2023年度事業計画・収支
予算承認/役員選任承認/その他(委員会報告など)

II 事業報告

(1) 学術論文誌の発行と会員の作成した論文の審査

学会員の学術論文作成を促進するため、編集委員会と査読委員により会員の作成した投稿論文 10 件を審査し、7 件を採択し、順次 Web に掲載した。また、2023 年 3 月には AI 時代の教育論文誌第 4 巻、2023 年 10 月には AI 時代の教育論文誌第 5 巻を発刊した。素早い論文査読を行うため、2 名の査読者が 2 カ月以内に 1 回査読を行った。

(2) 全国大会の開催

第 5 回年次大会は、2023 年 9 月 23 日（土）同 24 日（日）に東京富士大学で対面開催した。参加者 117 名以上で、テーマは「AI 時代の情報活用能力」でした。稲垣忠氏（東北学院大学教授）による招待講演「AI 時代の情報活用能力を再考する」、一般研究発表、未来探究/コンピュータサイエンス SIG や、前田康裕（熊本大学大学院特任教授）のコーディネートによるパネルディスカッションが実施された。

(3) 研究会、講演会、講習会等の開催

・2023 年度第 1 回研究会は 6 月 25 日（土）オンライン開催で参加者約 80 名、テーマ「ChatGPT など生成系 AI と教育」で、遠藤太郎（東京学芸大学准教授）の講演「ChatGPT などの生成系 AI がもたらす未来社会と教育」が行われた。第 2 回研究会は 3 月 24 日（日）聖徳学園中学・高等学校での対面開催で参加者約 30 名、テーマ「AI 時代の ID(インストラクショナルデザイン)」で、ミニレクチャや一般研究発表が行われた。

・AI 時代の教育に関する諸課題の研究のため、5 つの専門研究グループ(SIG)をオンライン開催した。参加者は最大約 55 名であった。「デジタル教科書 SIG」は、7 月 8 日から 3 回、特別支援と学習者用デジタル教科書（小中編）等を検討した。「コンピュータサイエンス SIG」は 8 月 6 日から 3 回、算数とプログラミングや子ども・宇宙・未来等を検討した。「生涯知能教育 SIG」は 12 月 22 日から人生 100 年時代の生涯学修、ChatGPT や芸術思考を通じた「絆」づくり等について 3 回、「国際懇話 SIG」は 5 月 22 日から ChatGPT や Bard 等対話型 AI の教育利用など 2 回、「未来探究 SIG」は 8 月 21 日から AI 時代における学びの OS や AI 時代の教育-AI の過去・現在・未来等 9 回、各々開催した。2 月 2 日(金)日本 STEM 教育学会との共催「AI 時代の能力育成を考える-PISA2022 の結果を踏まえて-」のシンポジウムをオンライン開催した。

(4) 論文誌、会誌、ニューズレター及び図書の発行と販売

年 6 回公益財団法人学習情報研究センター発行の「学習情報研究」誌に、学術論文（概要）を掲載した。メルマガによるニューズレターの発信を適宜実施した。

(5) 国内及び国外の関係学会・機関・団体等との研究交流

日本アクティブ・ラーニング学会との学会統合や日本 STEM 教育学会、日本創造学会や ICT CONNECT 21 等との連絡及び協力を図った。

(6) その他

J-Stage 申請など AI 時代の教育研究に関し必要と認められる事業を行った。

以上

2023年度収支決算書
AI時代の教育学会

< 収 入 >

(単位:円)

	予算額(A)	決算額(B)	差額(B-A)	備考
賛助会費	1,860,000	1,890,000	30,000	30,000円 ビズアップ総研、スズキ教育ソフト、光村図書出版、東京書籍、大日本図書、富士通、キャンドルウィック(2年分)、60,000円 リソウ教育財団、90,000円 ラック、300,000円 ネットラーニング、1,200,000円 グーグル
学会員会費	800,000	693,000	△ 107,000	6千円×113名、3千円×5名(正会員114名・未納17名 準会員9名・未納4名)
研究会参加費	0	0	0	3月24日参加費12,000円分は4月入金のため次年度計上
雑収入(論文誌販売、利息)	0	28,525	28,525	懇親会費余剰金 28,481円、利息44円
合計	2,660,000	2,611,525	△ 48,475	

< 支 出 >

(単位:円)

	予算額(A)	決算額(B)	差額(A-B)	備考
論文誌発行費	30,000	15,960	14,040	2回発行
年次大会・総会(9月23日24日)	200,000	238,661	△ 38,661	会場費176,000円 講演謝金20,000円(稲垣忠) 講師交通費22,000円 弁当代15,667円(20名×2日) 消耗品他4,994円
研究会費用(6月25日、3月24日)	60,000	45,433	14,567	6/25 講演謝金2名 40,000円 払込料429円 代3/24 弁当代等 5,004円
専門研究グループ(SIG)費用	250,000	137,032	112,968	講演謝金、会場費、交通費 ・国際懇話(5/22、3/30) 44,420円 ・未来探求(11/30) 21,100円 ・コンピュータ・サイエンス(8/6、12/17) 40,302円 ・生涯知能教育(12/22) 31,210円
理事会	15,000	0	15,000	オンライン開催
学情誌配布	800,000	750,000	50,000	125名分(昨年度分17名含む)、次年度繰越5名
ホームページ作成・メンテナンス	130,000	132,330	△ 2,330	作成・メンテナンス委託料11,000円×12ヶ月
学会事務局運営費	1,000,000	1,000,000	0	人件費753,000円、論文編集36,000円、「学習情報研究」誌への論文(抄録)・広告掲載費120,000円、雑費91,000円
通信費	0	40,248	△ 40,248	ZOOM契約33000円 サーバー代5568円 切手代1680円
合計	2,485,000	2,359,664	125,336	

< 収支差額 >

(単位:円)

	予算額(A)	決算額(B)	差額(B-A)	備考
当期収支差額	175,000	251,861	△ 173,811	
前年度繰越金	3,900,000	3,982,850	82,850	
繰越収支差額	4,075,000	4,234,711	159,711	

財産目録 令和6年3月31日現在

(単位:円)

資産	
現金手元有高	58,892
普通預金 ゆうちょ銀行〇一八支店	4,025,885
普通預金 三菱UFJ銀行神楽坂支店	149,934
負債	0
合計	4,234,711

監査報告書

令和6年6月10日

AI時代の教育学会

会長 中川 一史 殿

AI時代の教育学会

監事

山本 恵一



私、監事は、令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）における事業報告、財務諸表等及び理事の職務執行状況の監査を行いましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及びその使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等について検討いたしました。

2. 監査意見

- 1) 事業報告は、法令及び定款に従い、当学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- 2) 理事の職務の執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実
は認められません。
- 3) 財務諸表等は、当学会の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上